



予算の公開でムダの後悔をゼロに！ 民の力を政の力に！

民主・区民会議

松田 哲也 議員



<予算編成過程の公開>

予算編成は次の1年間に区は何をし、何をしないのかそのすべてを決めるものだ。しかし過程はブラックボックスになっているし、予算案決定後に組み替えられた事例は全国でもほとんどない。片山総務大臣は知事時代に各部局要求・財政当局査定・首長最終予算案のすべてを、時を置かず理由も含め公開してきた。編成過程の公開・議論こそ、事業を仕分ける最も優れた行政評価の手法だと考えたからだ。また限られた行財政資源の中、すべてのニーズには応えられない。例えば区の省エネ機器助成について、部局は温暖化対策のため削れないと要求した。財政課は長期的に取り組みから50%減額したいと査定した。最終的には20%減額で予算案は組まれた。このように削減理由を経過と共に公開した方が、区民も納得すると考えるがいかがか。

区長 予算編成に当たり、各部局の次年度予算要求確定時に全事業を公開する取り組みは、地方自治体の中で事例が出てきている。目黒区の予算は細目レベルで約450あり、実際の予算要求はさらに

細かく分かれている。予算編成のどの段階で公表するのか、事業名や数字を示すだけで理解していただけるか、など公開するに当たっては課題も多い。行政運営の透明性を確保するために、公開する情報の内容、時期等について導入自治体の事例を含め検証していく。また、予算編成過程の情報公開として、査定理由と財源内訳を付記することは、5か月間の予算編成作業の間に膨大な資料を新たに作成することになるため、人員体制等に影響が出る可能性があり、厳しい財政状況の下慎重に検討する必要がある。

<区民の力>

しぼむ財源と進む地方分権の下では、区民の区政への関心と参加は不可欠だ。地区サービス事務所を充実させ職員も地域に入り、町会・PTA・ボランティア等をつなぎ、参加を促すべきではないか。

区長 地区サービス事務所は、コミュニティ形成支援など広範な役割を期待されているため、地域包括支援センターや地域の公共的な活動を行う団体との連絡調整機能をさらに充実させていく。